

参加委員から事前にいただいたご意見等

参加委員から事前にいただいたご意見等

No	分類	参加委員から事前にいただいたご意見等
1	鉄軌道	○鉄道会社における駅員・窓口業務のAI対応化について ・駅員が担ってきた案内業務や問い合わせ対応が、AI案内端末(ロボット)、AIチャット、インターホン、遠隔オペレーター、AI自動応答等へ移行した場合、聴覚障害者(手話を使う人、発話が不明瞭な人を含む。)からの問い合わせにどのように対応するのか確認したい。 ・その後、双方向のコミュニケーションを確保するための取組が進められているのか、具体的な事例や進捗状況を伺いたい。 現在、一般財団法人日本財団電話リレーサービスでは、法人の電話対応業務において聴覚障害者等からの問い合わせに対応する手話通訳付き電話リレーサービス「手話リンク」が提供されている。このようなサービスの活用も有効ではないかと考える。
2	バス	○無人自動運転バスにおける双方向コミュニケーションの確保について 無人自動運転バスでは、異常時に運転手が不在となるため、聴覚障害者との双方向コミュニケーションが十分に確保されていないことが懸念される。無人自動運転バスの導入・運用にあたっては、事故やトラブル等が発生した場合にも、聞こえない人と双方向にコミュニケーションを取ることができる仕組みを整備していただきたい。また、聴覚障害者が安全に乗車できるよう、当事者団体を検討委員会等のメンバーに加えることについても働きかけていただきたい。
3	ガイドライン	○ガイドラインの内容改善について 2024年1月改定の「道路の移動等円滑化に関するガイドライン」は、視覚障害者が安心して踏切を利用できるようにすることが狙いです。しかし、テキストによる説明が不十分で、視覚障害者に理解しにくいものです。国土交通省として、視覚障害者向けの解説版を発行してください。
4	歩道	○歩道について 歩道には、電柱、標識、ボラードなど障害物が多くあるので、視覚障害者には危険な場所ともいえます。安全な歩行の障害となるものを設置しない、道の端に移動するなど対策を講じてください。
5	点字ブロック	○点字ブロックの対策について ・点字ブロックを歩道の中央に敷設する対策を講じてください。民地から60センチを原則としている現行では、商店の看板や人にぶつかることが多くありますし、衝突を回避しようとして、電信柱などにぶつかってしまう要因です。 ・経年劣化した点字ブロックが放置されている実態があります。改修が進む対策を講じてください。